

原田博史

(生長会 病理センター 府中病院 病理診断科)

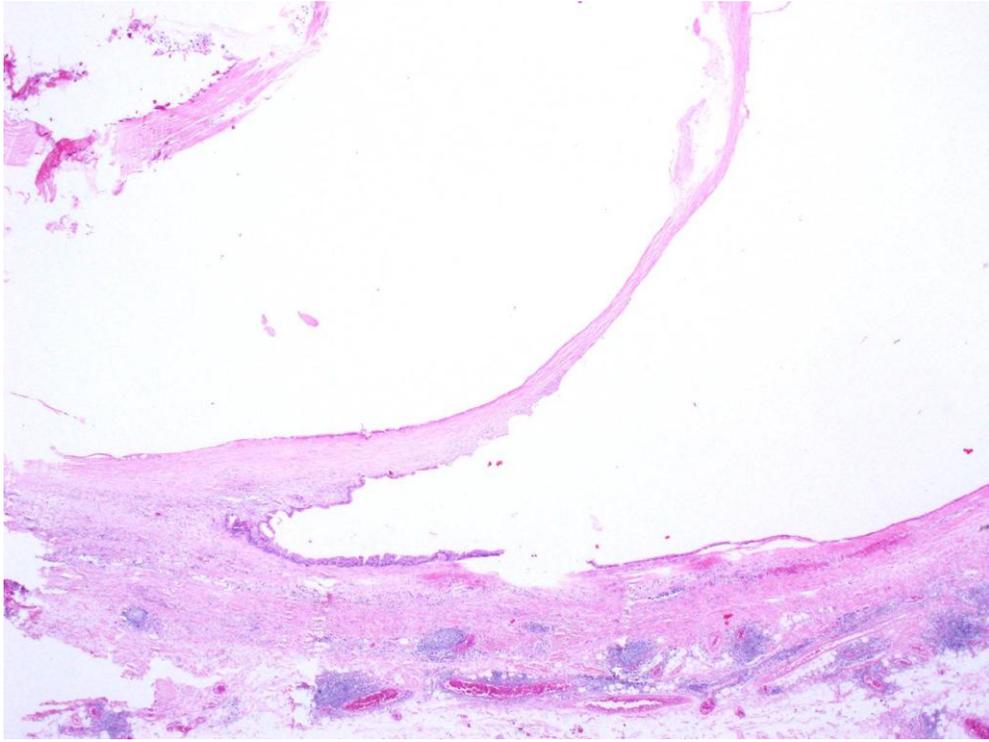
【症例】 54 歳、男性

【病歴】 検診時画像的に縦隔部の拡大を指摘されたが、疼痛など自覚症状がないため放置していた。1 年後地域の大学病院を受診、この際 CT にて縦隔の腫瘍性病変を指摘され、胸腺の摘出術を施行された。手術時、腫瘍は胸腺の下極に存在し、胸腺は周囲組織との癒着なく、容易に摘出された。術後約 8 年間再発や転移の兆候は認められない。

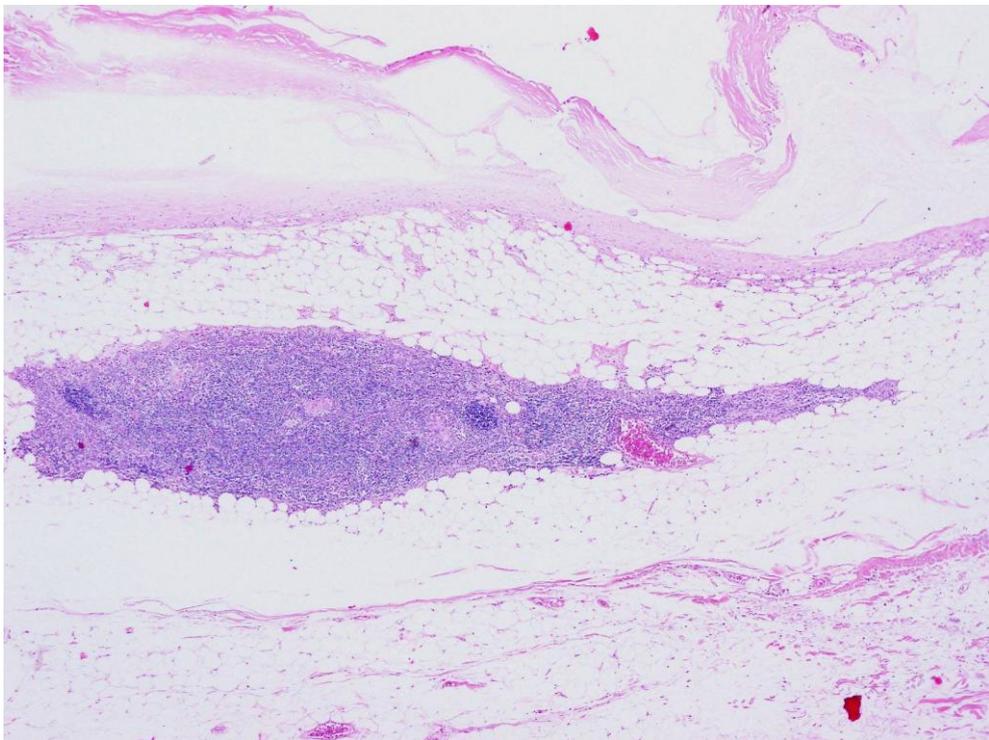
【肉眼像】 腫瘍は 8x5.5x4.5cm 大、豊富な粘液様基質を含む多房性の嚢胞状構造を有した。

【問題点】 病理組織学的診断

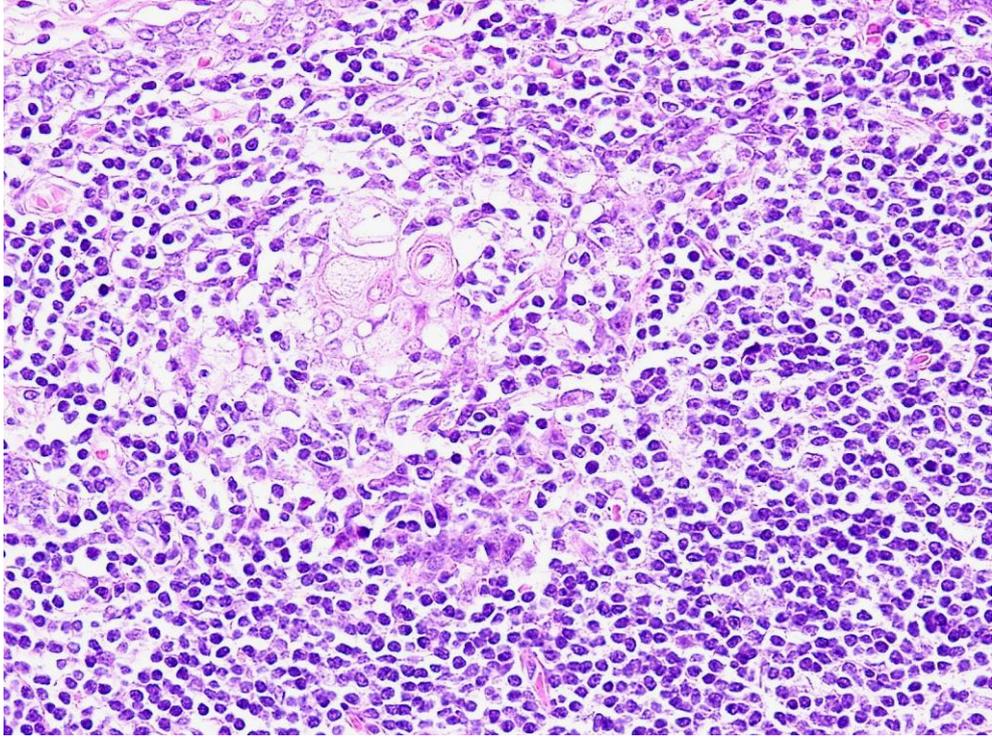
*本例は標本の配布はありません。
組織像については支部会 HP をご参照ください。



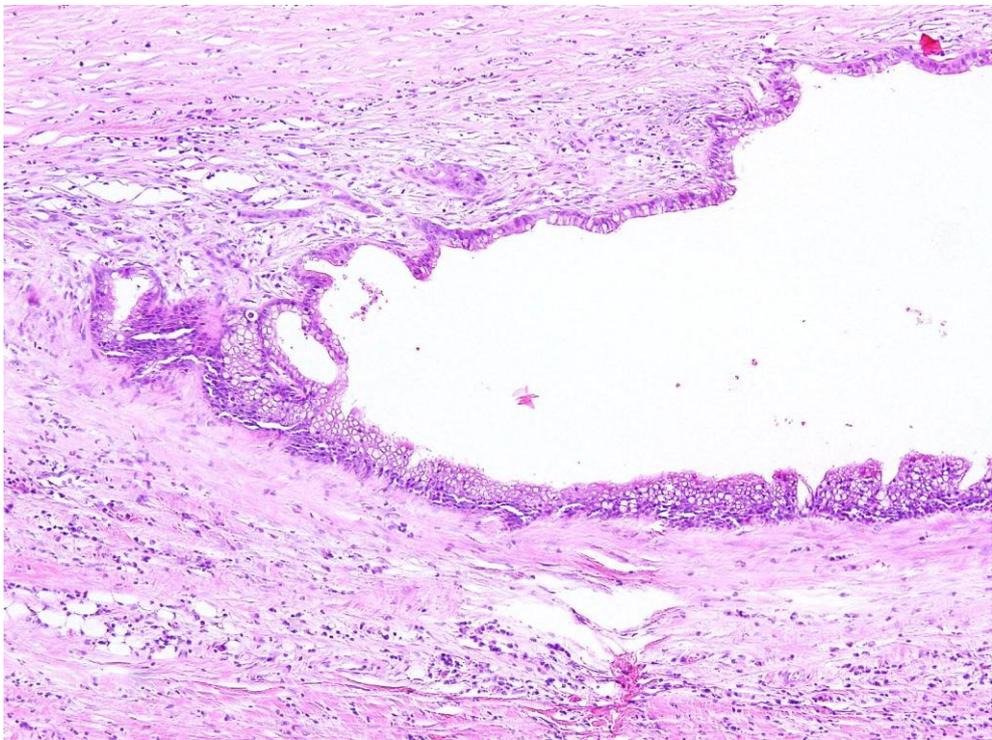
HE 像(1)



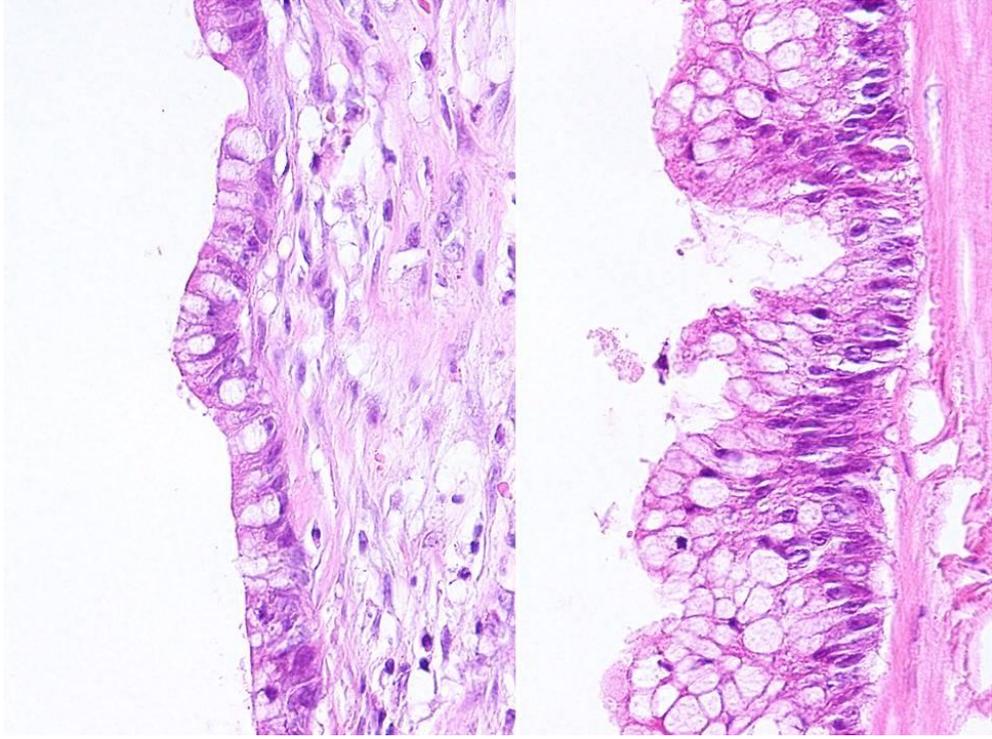
HE 像(2)



HE 像(3)



HE 像(4)



HE 像(5)